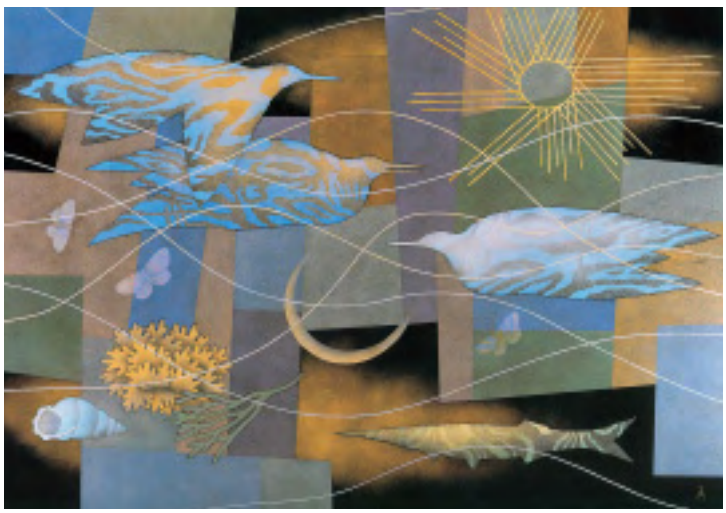
石川県立美術館だより

平成16年6月1日発行　第248号

第35回 日 展 金沢展

会期：5月22日(土)～6月13日(日)会期中無休

灰釉「見てご猿」　大樋長左衛門（年朗）



日月　三谷吾一

目 次

第35回日展金沢展……2
甲冑と陣羽織、漆の美 ……3
次回の常設展示室 ……4
常設展示室　主な展示作品 ……5
映像ギャラリー ……5
夏休み親子で楽しむ美術館　親子で鑑賞会… 6
県美Q&A、美術館の本 …… 6
企画展示室、各地の展覧会 ……7
6月の行事案内 ……7
所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信他…8

URL　http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

第3～9展示室

第35回日展金沢展

5月22日(土)～6月13日(日)会期中無休

主催／社団法人日展・北國新聞社・富山新聞社・テレビ金沢
石川県・石川県教育委員会・金沢市・金沢市教育委員会

刻　滝川真人（日本画・特選）

MONTPARNASSE　中町力（日本画・特選）

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻、工芸美術・書の日本美術の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術として親しまれています。

日展は明治四十年の文部省第一回美術展として発足以来、九十余年の歴史を持ち、この間、その時々の改革を重ねながら、常にわが国美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、昭和四十四年の改組から数えて三十五回目の展覧会となります。

金沢展は二年ぶり十八回目の開催です。東京の本展力作の中から、日本芸術院会員、日展理事、評議員、会員などの秀作と、内閣総理大臣賞、日展会員賞、特選（石川県関係では、日本画で滝川真人氏、中町力氏、古澤洋子氏、洋画で松下久信氏、西田伸一氏、工芸美術で川本敦久氏が受賞）などの受賞作品合わせて約三百点を選抜して基本作品とし、これに石川県関係の新入選十二人を含めた百十九人の入選作品を加えて、総計約四百二十点を一堂のもとに展示します。

本展の開催によって豊かな芸術作品に接する機会を提供し、芸術文化の向上、情操教育の振興に役立てば幸いと念願しています。

◇**主な出品作家**（五十音順・敬称略）

日本画
岩澤重夫　大山忠作　佐藤圀夫　白鳥映雪
鈴木竹柏　高山辰雄　中路融人

洋画
円地信二　清原啓一　庄司栄吉　中山忠彦
塗師祥一郎　平松譲　村田省蔵　森田茂

彫刻
雨宮敬子　石田康夫　得野節朗　富永直樹
中村晋也　長江録弥　野々村一男　橋本堅太郎

工芸美術
青木龍山　井波唯志　大樋長左衛門（年朗）

書
奥田小由女　高橋節郎　蓮田修吾郎　三谷吾一
小林斗盦　杉岡華邨　田島方外　日比野光鳳
村上三島　横西霞亭

刻の堆積　古澤洋子（日本画・特選）

◆**作品解説日程**

月日／時間	10：30～12：00	13：00～14：30	14：30～16：00
5月24日(月)	日本画 滝川真人	洋画 円地信二	彫刻 石田康夫
5月28日(金)	工芸美術 大樋長左衛門	書 高廣幸悠	日本画 仁志出龍司
6月1日(火)	洋画 端名清	彫刻 山瀬晋吾	工芸美術 三谷吾一
6月3日(木)	書 三藤観映	日本画 中町力	洋画 松本昇
6月7日(月)	彫刻 銭亀賢治	工芸美術 井波唯志	書 堀井聖水
6月9日(水)	日本画 百々俊雅	洋画 三浦泉	彫刻 野畠耕之介
	工芸美術 北出不二雄	書 中田飛泉	

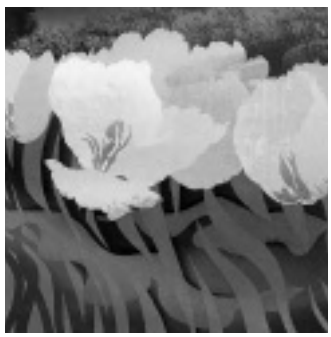
◆**観覧料**

個人	一般・大学生	1,000円
	中・高生	700円
	小学生	400円
団体（20名以上）	一般・大学生	800円
	中・高生	500円
	小学生	300円

※石川県立美術館友の会会員は、正面受付で会員証を提示されると、団体料金になります。

刻・遠いみち　西田伸一（洋画・特選）

北の大地　松下久信（洋画・特選）



旅の空　川本敦久（染色・特選）

常設展示室(前田育徳会展示室)

特　集

甲冑と陣羽織

5月20日(木)～6月13日(日)

応仁の乱（一四六七～七七）以後、室町幕府の権威が衰え、戦闘が絶えない戦国時代となりました。この間の戦闘は、槍の普及さらには天文十二年（一五四三）の鉄砲伝来を契機として、密集隊形による徒歩集団戦へと変化し、機敏な動きをするためにより軽い甲冑が大量に求められ、また、攻撃具が多様化、強力化したのにともない、防具である甲冑の変化もうながされ、より頑丈なものが求められました。

このような時代背景から、これまで作られてきた甲冑の様々な要素を組み合わせて、総合的に構成され生まれたのが当世具足です。具足とは、装具の完備した甲冑という意味であり、大鎧、胴丸、腹巻などがそれだけで成り立っていたのに対して、当世具足は兜・面具・胴・袖と籠手・臑当・佩楯の七具などをすべて皆具している点が特徴です。

陣羽織とは、武士が合戦の時、具足の上に着用した外被です。室町時代中期頃より用いられ、具足羽織や陣胴服などと呼ばれました。形は一般に袖なしのものが多く広袖のものもあります。最初は普通の羽織を陣中で着用していましたが、次第に威厳を示すため人目を引く羽織が作られるようになりました。戦場において寒さや雨露から身を守るため、そして動き易さを求めて、また、存在誇示や応接の際に威厳を示すために、当時日本に舶載されたラシャやビロードなどの新しい素材を使用して、南蛮的嗜好が強く反映したデザインのものや、奇抜ともいえる自由な意匠による陣羽織が作られました。今回は、前田家歴代藩主所用の甲冑・陣羽織及び鞍・鐙など二十五点を展示します。

常設展示室(第2展示室)

特　集

漆の美

5月20日(木)～6月13日(日)

今回の特集は、所蔵品・寄託品の漆芸品の中でも蒔絵の作品を中心に、三十六点を展示します。

漆器は英語でｊａｐａｎといわれますが、国名が冠されている事が示すように、ポルトガル人の来航以来、海外の人々をどんなに魅了したことかを物語っています。漆黒に蒔絵が施され、輝きを放つ日本独特の漆工品は、日本の湿潤な風土の中で育まれ、華やかな発展を遂げました。

その魅力の第一は、漆自体が持つそのしっとりとした艶やかな光沢と、独特の暖かみを感じさせる美しさです。次に、そこに様々な装飾が施され、その美しさはさらに強調されます。加飾技法の中心は蒔絵です。蒔絵は漆で絵文様を描き、金粉や銀粉を蒔きつける技法を基本としており、研出蒔絵・平蒔絵・高蒔絵に大別されます。またこのような技法に螺鈿や金貝などが併用されることもあります。そのように装飾された蒔絵の美しさはその意匠です。身近な風景や四季折々の自然描写、また和歌や物語の場面を表現した文学性豊かな意匠がその中心です。それは表面的な美しさやおもしろさを単に味わうだけではなく、そこに叙情性や装飾性を求める傾向があります。それは、日本人が自然と共生してきたからにほかなりません。穏やかで四季の変化に富んだ自然は、農耕民族の日本人に無限の恩恵を与えてくれるものでした。このような自然に日本人は自ずと感謝の心を持ち、信仰の対象としての神の存在を感ずることは当然のことといえます。このような自然に対する日本人の感性が、文学をはじめ絵画や工芸品に表現されているのです。

本展では、室町時代から江戸時代の漆芸品の棚・硯箱・手箱・経箱・香合などの作品を展示し、時代とともに様々に表現された「漆の美」に、日本人の心をこめた作り手の想いを、感じとっていただければ幸いです。

蒔絵秋草図角赤手箱

次回の常設展示室

6月17日(木)～7月19日(月・祝)

第5展示室

特別陳列

古九谷へのまなざし
―昭和・平成の名工たち―

色絵罌粟大飾皿　富本憲吉

古九谷は、十七世紀半ば頃に加賀の地で誕生したと考えられています。色絵磁器は当時の日本では新しい領域だったにもかかわらず、果敢な挑戦の結果、短期間で絵画、漆芸、染織、金工などの意匠を自由な発想のもとに取り入れた斬新な造形感覚が形成されていきました。大量生産で類型化されることなく、斬新さを保持したまま半世紀近くで終息した古九谷の美意識は、十九世紀の再興九谷諸窯の消長に見られるように石川県に連綿と継承され、今日に至るまで、多くの名工たちを魅了してきました。

本特別陳列は、古九谷の美を直視した作家たちが独自の作風を打ち出して伝統と対峙していった軌跡を、館蔵品を主体とする約五十点の作品によってたどり、古九谷の文化的求心力に対する理解を深めることを趣旨とするものです。

前田育徳会展示室

特　集

近代の美術

前田育徳会の所蔵品といえば、一般には歴史的な美術工芸品や古文書、典籍の優品が揃えられているということで有名ですが、一方では優れた近代美術作品も数多く蒐集されているのです。育徳会と近代美術、少し不思議な感じかもしれませんが、これらには十六代当主利為(としなり)侯が深く関わっており、その蒐集の経緯はおおむね次のように分けられます。

①明治四十三年の明治天皇と皇后の行幸啓にあわせて新築した本郷邸の装飾用に購入した作品
②欧州出張・滞在中に購入した作品
③依頼して描かせた作品
④記念に贈呈された作品

これらは、利為侯を中心とした前田家の近代史の一面を垣間見るものともいえるでしょう。今回の展示では西洋絵画の名品を始め、日本画の秀作と彫刻作品、約二十点を紹介する予定です。

第2展示室

特　集

古九谷・再興九谷名品展

色絵鶉草花図平鉢

江戸時代から現在に至るまで、加賀地方南部を中心に焼かれているやきものを九谷焼といいます。今回はその九谷焼の流れをたどるべく、古九谷と再興九谷から約五十点を展示します。

九谷焼のなかで最も早く、江戸時代前期に焼かれた色絵磁器が**古九谷**(こくたに)です。その豪放華麗な意匠は、伊万里焼、京焼とともに日本の三大色絵として早くから高く評価され、世界的な名陶として知られています。

再興九谷は、江戸時代後期、加賀において古九谷以後活動した窯の総称です。南加賀の吉田屋窯、宮本屋窯、小松・能美の若杉窯、小野窯、蓮代寺窯、金沢の春日山窯、民山窯などが代表的で、粟生屋源右衛門・永楽和全・九谷庄三の名も知られます。

今日の九谷焼に受け継がれたもの、失われたものを含む、それぞれの窯の特色と変遷をご鑑賞下さい。

常設展示室

主な展示作品

5月20日(木)～6月13日(日)

◉=国宝　◎=重要文化財
□=石川県指定文化財

◉色絵雉香炉（右）
◎色絵雌雉香炉（左）

前田育徳会展示室

特集　甲冑と陣羽織

黒皺革包総角蒔絵鞍
牡丹唐草柳に燕象嵌鐙
黒塗六十二間甲冑　三代利常所用
黒塗張掛シコロ甲冑　十代重教所用
菖蒲革包頭巾甲冑　十一代治脩所用
鱗形に松皮菱文陣羽織　五代綱紀所用
日の出に立波文陣羽織　六代吉徳所用
鍾馗幟　岸浪柳渓筆

第1展示室

◉色絵雉香炉　野々村仁清
◎色絵雌雉香炉　野々村仁清

第2展示室

□色絵鳳凰図平鉢　古九谷
□青手樹木図平鉢　古九谷
青手桜花散文平鉢　古九谷

特集　漆の美

蒔絵芦に水鳥図硯箱
蒔絵秋草図角赤手箱
蒔絵撫子文棚
□蒔絵歌書箪笥　伝五十嵐道甫
蒔絵象嵌象図提箪笥　小川破笠

※第3～6展示室は、5月22日（土）から6月13日（日）まで第35回日展金沢展会場となっています。通常の展示は6月17日（木）からですが、次号でご案内いたします。

◆観覧料

個人	一般	350円
	大学生	280円
	高校生以下は	無料
団体（20名以上）	一般	280円
	大学生	220円
	高校生以下は	無料

□色絵鳳凰図平鉢

色絵花鳥図九角平鉢

映像ギャラリー

◇今月の映画・ビデオ

6月6日(日)　月例映画会／ホール
フランドル絵画　水が語るもの
イタリアルネサンスとの出会い　（23分）

6月20日(日)　ビデオ鑑賞会／ホール
国宝3　東大寺Ⅰ　大仏と仁王像　（27分）

※いずれも入場無料

今月上映予定の16ミリ映画は、「フランドル絵画」です。フランドルとは一般に、現在のベルギーの地方を指しますが、12世紀頃からすでに都市が発達し、とくに毛織物工業によって繁栄していました。フランドル美術は、15世紀に黄金期を迎え、それまでの中世のゴシック様式に、しだいにイタリア・ルネサンスの影響がみられるようになります。絵画では、宗教的主題を描きながら、自然を忠実に写し取り、光の効果やものの質感を細緻な筆致で表現しました。この映画では、フランドルにおけるベニスともいわれる水の都ブリュージュで、15世紀に活躍したハンス・メムリンクや、その師であったとされるロヒール・ファン・デル・ウェイデンの祭壇画を中心に、その表現の魅力と制作の背景を探ります。

今月のビデオ鑑賞会は、国宝シリーズの第3回目で、東大寺の大仏と仁王像を中心にまとめたビデオを取り上げます。世界最大の木造建築とされる東大寺金堂いわゆる大仏殿には、日本最大の銅像である盧舎那仏（大仏）が安置されています。大仏は十数メートルの高さを誇り、その偉容をカメラが丹念に映し出し、圧倒的な存在感をもって見るものに迫ります。また、台座の蓮弁には、蓮華蔵世界が線刻されており、天平彫刻の技術の高さを今に伝えています。一方、南大門には高さ八メートルをこす二体の金剛力士像、すなわち東に躍動感あふれる吽形、西に緊張感に満ちた阿形が立っています。画面は、運慶・快慶一門の傑作になるこれら仁王像を、修復の様子も織り交ぜながら紹介していきます。

キッズ☆プログラム　体験講座　参加者募集！！

夏休み親子で楽しむ美術館　親子で鑑賞会

親子で楽しむ、作品鑑賞・制作体験のワークショップです。

第1回　工芸に挑戦！　小学校1・2年生
7月27日(火)
対象：美術に関心のある小学校1・2年生とその保護者。
（親子参加型なので必ず保護者同伴）
内容：展示室で作品鑑賞の後、簡単な制作体験をします。

第2回　絵画(日本画)に挑戦！　小学校3・4年
7月29日(木)
対象：美術に関心のある小学校3・4年生とその保護者。
（親子参加型なので必ず保護者同伴）
内容：展示室で作品鑑賞の後、簡単な制作体験をします。

第3回　学芸員に挑戦！　小学校5・6年
7月31日(土)
対象：美術に関心のある小学校5・6年生とその保護者。
（親子参加型なので、必ず保護者同伴）
内容：展示室で作品鑑賞の後、学芸員の仕事を体験します。

場　所　石川県立美術館
時　間　13：30～15：30頃
定　員　各15組
参加費　材料費など(各回で異なりますが、一人500円程度になります)

◇申し込み方法
往復はがきで申し込んでください。
往信はがき裏面に参加希望の子供・保護者の氏名、お子さんの学年、住所、電話番号、希望する行事名を記入。
返信はがき表面に返信先(住所、氏名)を記入。
返信はがき裏面にはこちらで印刷をしますので何も書かないでください。
※応募者多数の場合は抽選となります。
（返信はがきで通知いたします。）

◇応募締め切り　6月30日(水)消印有効

◇問い合わせと申し込み先
石川県立美術館　普及課「親子で鑑賞会」係
〒920－0963　金沢市出羽町2－1
☎076－231－7580

美術館の本

石川県立美術館所蔵品図録	3,500
－石川県立美術館所蔵－　茶道美術名品図録	2,500
－石川県立美術館所蔵－　九谷名品図録	2,000
前田利為と尊經閣文庫	2,000
前田育徳会の名宝　百工比照	1,500
九谷焼	2,000
石川県の工芸　－江戸時代から現代まで－	2,000
隅谷正峯展　－日本刀その神秘なる彩り－	2,000
蒔絵・人間国宝　寺井直次の世界	2,000
板谷波山の神々しき陶磁世界	1,900
大樋長左衛門の世界	2,200
彫刻家　吉田三郎展	2,000
北野恒富展	2,000
鴨居玲	3,000
畠山記念館名品展	2,200
新刊	
日本の四季　－春・夏の風物－	1,200

税込定価(円)

☆ミュージアムショップで販売中!!
郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。
☎076－231－7580

県美Q&A

Q　長い駐車場待ち

美術館の駐車場は狭いので大きな展覧会の時など、駐車のために長時間待たされることがよくあります。なんとかなりませんか。

A　このことについては私たちも大変頭を痛めています。市の中心部にある当館は公共交通機関利用による来館を前提として昭和58年に建設されました。そのため十分な駐車場を確保していなかったのです。現在は来館者の利便を考慮して前庭を駐車場として使用しています。しかし、約60台分のスペースしかなく、ご来館の皆様にはできるだけ公共交通機関のご利用をお願いしていますが、それでも約2割の方が遠隔地であるとか様々な事情により自家用車でご来館のようです。大型企画展開催中は大変混雑しますが、隣接の歴史博物館のご協力を得て、同館駐車場の一部を臨時に駐車場として利用させていただくなど、その混雑の解消に努めています。今後とも当館の運営に、ご理解とご協力をお願いいたします。

企画展示室

第15回石川県水墨画協会公募展

6月19日(土)～23日(水)(第7～9展示室)

石川県水墨画協会は、平成元年発足、同2年に第1回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作品を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的個性的な表現による、楽しみな協会展ならではの作品をご覧いただけると思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

会　長　小川伸洋
理事長　尾坂杜風

◇入場無料

◇連絡先　金沢市三ツ屋町ハ18-3
事務局長　笠井宰州(利久)
☎076-237-6513

漢字の成り立ち展

6月26日(土)～29日(火)(第7展示室)

紀元前1300年中国殷時代に誕生した漢字の原点である甲骨文字をテーマに、その発見と研究の歴史、甲骨文字の拓本、写真資料、亀の甲羅と牛の肩甲骨に彫られた甲骨文字等を展示し、現在使われている漢字の起源をわかりやすく紹介する展覧会です。この外中国側から甲骨文字書法作品20点、日本側から最古の甲骨文字を現代アートにした書法篆刻作品約90点、合計約200点を展示。こうした企画は世界でも初です。

◇入場無料

◇連絡先　金沢市三口新町3-18-4
北技篆会事務局　北室南苑
☎076-222-3624

第46回北陸創造展

6月26日(土)～29日(火)(第8・9展示室)

北陸創造美術会は、各作家がその主体性に基づくオリジナルな芸術を創造するために、もっとも自由で活動的な研鑽の場を作ることを目的としています。6月上旬、東京都美術館で行われた創造展に入選した作品を中心に、北陸支部会員100余名が、4部門(洋画・日本画・彫刻・陶芸)にわたって展示します。

より多くの方々に見ていただき、ご批評を賜りたいと念願しております。また、意欲的な同意者支持者に対し、広く門戸を開きます。

◇入場無料

◇連絡先　松任市専福寺町228-15　加原和夫
☎076-276-6395

各地の展覧会……6月

※開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

ゴッホ、ミレーとバルビゾンの画家たち　6/13まで
名古屋市美術館（名古屋市・052-212-0001）

法隆寺　－日本仏教美術の黎明－　6/13まで
奈良国立博物館（奈良市・0742-22-7771）

再考：近代日本の絵画　美意識の形成と展開　6/20まで
東京藝術大学大学美術館（台東区・03-5685-7755）

富山県水墨美術館開館5周年記念　上村松篁展　5/28～6/27
富山県水墨美術館（富山市・076-431-3719）

エミール・ノルデ展　6/5～7/4
三重県立美術館（津市・059-227-2100）

フェルメール「画家のアトリエ」栄光のオランダ・フランドル絵画展　7/4まで
東京都美術館（台東区・03-3823-6921）

漆に魅入られた女たち　－天野文堂と10人の女流作家達－　7/5まで
石川県輪島漆芸美術館（輪島市・0768-22-9789）

マン・レイ展　6/11～7/11
福井県立美術館（福井市・0776-25-0452）

野見山暁治展　うつろうかたち　6/4～7/19
愛知県美術館（名古屋市・052-971-5511）

6月の行事案内　《入場無料（ギャラリートークを除く）・いずれも午後1時30分から行います》

月　日	行　事	内　　容	会　場
6／5（土）	美術講座	茶道美術　－山川コレクション－　（高嶋清栄　学芸専門員）	講義室
6／6（日）	月例映画会	フランドル絵画　水が語るもの　イタリアルネサンスとの出会い(23分)	ホール
6／19（土）	美術講座	江戸時代の絵画　（村瀬博春　学芸主査）	講義室
6／20（日）	ビデオ鑑賞会	国宝3　東大寺Ⅰ　大仏と仁王象(27分)	ホール
6／26（土）	ギャラリートーク	古九谷今昔　（村瀬博春　学芸主査） ※展示室内で行われるため、常設展の入場料が必要です。	常設展示室

※6月の全館休館日は14日(月)～16日(水)です。

青手老松図平鉢

古九谷

江戸時代　17世紀
口径42.8　底径17.2　高9.7(cm)

平鉢の見込み全体に、くねくねと曲折した松の古木と、丸いかたまりに意匠化した松葉を豪快に描いています。松樹や下部の土坡（どは）、岩に用いられた筆法に特徴があり、狩野派あたりの画題を意識した図様とも考えられますが、あたかも障壁画の一部が平鉢という限られた大きさのなかに凝縮された迫力に満ちています。古九谷は豪放華麗と形容されますが、その魅力にふさわしい存在感のある作品です。地文には花小紋を埋め、紫、緑、黄の三彩を用いて賦彩しています。裏面には呉須で波状渦文が二段に描かれ、高台内は二重角の「福」字銘を記し、裏全体を緑で彩っています。半磁胎の素地で、口紅や染付、目跡がなく、しかも高台経が比較的小さいことから、古九谷編年の中でも初期に位置付けられる貴重な作品の一点です。

古九谷は加賀藩の支藩であった大聖寺藩の藩窯として明暦元年（一六五五）頃に操業されました。当時、小松の地へ隠居した前田利常は、本藩と大聖寺藩の後見人として藩政に関与しており、古九谷の開窯にも加賀藩の文化事業の一環として関与していたことは言うまでもないことと思われます。外様大名であるが故に徳川幕府への政治的屈従を強いられた利常が、大藩の藩主としてのプライドを誇示するための唯一の方法は、自己の文化政策による反体制的姿勢の表明でした。古九谷の凛としたその風格は、利常の美意識の象徴といっても過言ではないように思われます。

※第2展示室で展示中

ミュージアムショップ通信

いよいよ梅雨の季節です。雨がしとしと降り、どんよりとした空を眺めていると気分も滅入りがちになりますね。そういう時は是非当館に足を運んでいただき、芸術に触れ気分も一新していただきたいものです。

今月は「日本の四季－春・夏の風物－」を紹介いたします。先月、当館の企画展として開催された展覧会の図録です。桃山時代・江戸時代の美術工芸品の中から、春・夏の季節の情趣や、人々の暮らしに見る季節感を取り上げた作品を展示しました。日本人の中に息づく自然に対する優しい情感がいっぱい詰まった一冊です。展覧会を見逃した方は是非、手にとってご覧ください。

「日本の四季　－春・夏の風物－」
（定価1,200円）

次回の展覧会

特別陳列　古九谷へのまなざし
－昭和・平成の名工たち－
（第5展示室）

特　集　近代の美術　（前田育徳会展示室）

特　集　古九谷・再興九谷名品展（前期）
（第2展示室）

6月17日（木）～7月19日（月・祝）

休館日：6月14日（月）～16日（水）

石川県立美術館だより　第248号
2004年6月1日発行
〒920-0963　金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580　FAX 076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/